



こころざし

【学校教育目標】
夢の実現に向かって たくましく
挑戦する児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

第 5 号

令和6年6月12日発行

文責 校長 多久島 一仁

唐津市教育の日でふれあい道徳を行いました

6月8日（土）に、授業参観でふれあい道徳を行いました。どの学年も、先生が出される問いに対して真剣に考え、発表したり、書いたりしていました。各学年の授業のタイトル等はおりのとおりです。

小学1年生 「うまれたてのいのち」

さまざまな命を考えながら、自分が生まれた頃のことを考えました。「生んでくれてありがとう」という児童の言葉が印象的でした。

小学3・4年生 「うそ、どう解く」

「ついてもいいうそ」と「ついちゃだめ」なうそについて考えました。子どもだけでなく、大人の意見も二つに分かれていろんな考えを学んでいました。「相手も自分もいい気持ちになるうそはついていいうそ」という児童の考えに、なるほどと思いました。

小学5・6年生 「のび太に学ぶ」

ドラえもんに出てくるのび太について考え、マイナス面のように見えてところもプラスに考えることができることや、人はよく見ると意外といいところがあるということなどを学びました。

中学1年生 「たったひとつのたからもの」

5歳で亡くなったダウン症の加藤秋雪君の生涯について学びました。体が弱く、できないこともあったけど、5歳まで一生懸命に生きたことや、秋雪君が幸せだったことについて考えました。

中学3年生 「親の気持ち」

お父さんが自分たち家族の安全のために祈っていることを知った主人公や父親の気持ちについて考えました。授業の最後に生徒がおうちの方へ手紙



を贈りました。

本校には「永遠の目標（とわのめあて）」があります。「つばき」を頭文字にして、「㊦
よいからだ」「㊦りばり勉強」「㊦ちんと挨拶」掲げていますが、これは「知徳体」を伸
ばしていこうということをこのように表現されています。この中で「徳」に当たるのが「き
ちんと挨拶」ですが、これは挨拶をはじめとして道徳性を高めていこうという思いがこめ
られていると思います。学習指導要領に定められた道徳性に関する内容項目は中学校で
22（小学校1・2年生は19）あります。どのようなものがあるかという、「自律・
向上心・思いやり・感謝・礼儀・遵法精神・公正・公平・郷土愛・生命の尊さ・自然愛護」
などです。

道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものですが、現在は、特別の教科として
道徳の時間が位置付けられています。これからも、道徳の時間を通して、自分を見つめ、
物事を広い視野から考え、生き方についての考えを深める学習にしていきたいと思いま
す。

牧瀬圭斗さんを紹介しました

6月5日（水）の集会で、2022年箱根
駅伝の6区で区間賞を取り、順天堂大学を準
優勝に導いた牧瀬圭斗さんの話をしました。
圭斗さんが中学2年生の時に、私が山代中学
校で担任をし、3年生の時に学年主任をした
生徒です。



中学時代は社会体育でバスケットボール
をしていました。ですが、2年生まではメン
バーが4人しかいなかったのも、中体連などの大会に出場することができませんでした。
それでもバスケが好きだったので、コーチの指導にももしっかりついていき、練習を重ねて
いきました。3年生になって、中体連の駅伝大会に出場し、地区や県で活躍し、高校の監
督の目に留まり、白石高校へ進学し、駅伝をすることになりました。その後、高校でも活
躍し、駅伝の名門、順天堂大学へ進学しました。

1年生から3年生までは箱根駅伝への出場の機会はなく、主将になった4年生でも、前
日までは控えになっていました。ですが、当日、6区の起用に応え、区間賞となりました。
途中、大学時代は怪我也あったようですが（私も足底筋膜炎の予防法などを相談したこと
があり、その時に教えてもらったゴルフボール踏みは今でも続けています）、その怪我に
もめげずに4年間きつい練習にも取り組みました。

私が彼に教えてもらったことは、「一生懸命に努力を続ければ、やりたいことが変わって
も、夢を実現できるかもしれない！」ということです。最初はバスケットを頑張ろうと思
ってやっていたことが、一生懸命に取り組むことで知らず知らずのうちに長距離走の力を
高め、箱根駅伝を走って区間賞を取るという夢を実現したという、すばらしいお手本だと思
います。

加唐小中学校の子どもたちも、今やっていることを一生懸命に取り組み、学校教育目標
にもあるように、夢の実現につなげていってほしいと思います。

